

パラリンピック競技のゴールボール、ボッチャ、シッテイングバレーボール。東京大会では3競技の会場でスポーツ専用の床材「タラフレックス」が用いられる。トップ選手強化施設でも導入が進んでおり、レベルアップと普及につながりそうだ。

塩化ビニール製で高密度のスポンジやグラスファイバーが層になり、反発力やグリップ力、衝撃吸収力に優れ、パラリンピックなどパラスポーツの主要な国際大会で導入されている。東京大会で使われるのは、球が転がる音が重要な視覚障害者のゴールボール、球に回転や強弱をつけて狙った場所へ投げるボッチャ、座った状態でプレーするシッテイングバレーと床から受ける影響が大きい競技だ。

健常者向けの競技では普及しているが、東京大会

# 衝撃吸収 広がる専用床

本番を想定して練習できる施設不足が課題だった。中でも導入に積極的なのがボッチャで、日本協会は東京大会のホストタウンや強化選手の地元自治体、企業と連携し、全国10か所で仮設を含む拠点を整備。強化や普及で成果を上げている。

タイ代表のホストタウン

ウン・秋田県大館市はコートを使ったイベントや日本とタイの合同合宿などを開催。担当者は「『ボッチャの街』としてPRしたい」と意気込む。19年夏にオープンした。パラの強化拠点「味の素ナショナルトレーニングセンター」(東京都北区、NTC)の拡充棟

## パラ競技普及「床」が一役



福島県白河市で行われたボッチャ日本代表の強化合宿(2020年11月)

タラフレックスの構造



**グラスファイバークロスなど**  
耐久性がアップ。圧縮や荷重に強い

**特殊ウレタンコーティング**  
適切な滑りと最適なグリップ力を演出。水や汚れをはね返しメンテナンスが容易

**高密度スポンジ層**  
2層に分かれ、衝撃吸収力で快適・安全な運動環境を提供



千葉・幕張メッセで開かれたゴールボールのテスト大会(19年9月)

## 巻き取り式も

タラフレックスの歴史は古い。1947年にフランスの企業が開発し、63年に販売を開始。日本のスポーツ施設の床は木材がメインだったが、78年に本格的に導入されて以降、全国に普及した。ハンドボールやバレーボ

ールの国内リーグなどトップレベルの会場以外でも、各地の体育館や学校などの公共施設、スポーツクラブなどにも広がっている。常設の床に加え、巻き取り式で仮設で設置できるものもあるなど利便性も高い。輸入販売を行う「クリヤマ」(大阪市)の担当者は「全国4000か所以上で使われている」と話す。

でも、共有コートに採用された。ゴールボール日本代表はNTCを拠点に練習しており、総監督の市川喬一は「本番と同じ床材で練習できることは素晴らしい」。整い始めた環境を追い風にメダルを目指す。(畔川吉永、敬称略)